

西濃農林事務所の普及活動状況

平成29年8月31日現在

今月の重点活動

■GAP 内部監査及び研修会を実施～神戸町下宮青果部会協議会～

7月25日に神戸町下宮青果部会協議会で取り組んでいる下宮版GAPの内部監査を実施した。協議会役員、JA下宮支店担当者、農業普及課が8班に分かれて全会員宅を巡回し、農薬の保管状況、動噴の洗浄状況など17項目について確認した。ほとんどの項目で昨年と比べて「できた」の割合が高くなり、GAPの取り組みが会員に浸透してきている。監査結果については、8月29日に全会員を対象に説明会を実施する予定である。



【GAPアドバイザーによる現地指導】

また、7月31日には県のGAPアドバイザー派遣制度を利用して、GAP認証に向けた研修会を開催した。当日は、イオンアグリ創造株式会社の品質管理室長から「GLOBAL GAP」について講義を受けた後、健康やさい村の作業場、農薬保管庫、ハウスなど現地での注意点について説明をもらった。協議会の会員や関係者など36人が出席した。今後もGAP認証に向けて勉強会を開催していく計画である。

多様な担い手づくり

■県就農支援センター 就農支援担当者会議の開催

8月17日に、就農支援センターにおいて就農支援担当者会議が開催され、活動支援を行った。会議では第1、2期生の就農状況、第3期生の定植準備の状況、第4期生の就農計画について検討された。第1、2期生については、収穫量の個人差が大きいこと、パート等の労力確保が難しいこと等の指摘があった。また、トマトの生産過剰傾向に対する将来への不安の声も上がった。西濃管内に就農予定の第4期生2名は、いずれも地元の後継者であることから、具体的な施設の設計等について検討された。

売れるブランドづくり

■トマト 施肥設計個人面談を実施～管内各トマト部会～

農業普及課とJAにしみののは、7月26～28日に海津トマト部会の抑制・長段作型の生産者、8月4日は池辺園芸トマト組合、さらに8月7、9日は海津トマト部会の促成作型の生産者を対象にして個人面談を実施し、平成30年産の施肥設計を中心に指導を行った。肥培管理だけでなく、平成29年産の各生産者の栽培上の課題について意見交換し、平成30年産に向けた改善点や取り組みを明確にするように努めた。特に課題になったことは、多くの経営者は家族労働が主体であり、本人及び家族の高齢化による労力不足で適切な栽培管理が困難になりつつあることである。そのため面積縮小の検討や、省力化を目指した栽培方法や設備の導入を検討している生産者が目立つようになってきた。今後、パート雇用の確保も大きな課題になってくると思われる。

■ ブロッコリー 各地域で播種開始

ブロッコリーの育苗が各部会で始まっている。29年は西濃地域全体で約35ha(前年より約5ha増)となる見込みである。西濃地域では、共同育苗を行う部会、花農家や法人に育苗を委託する部会、又はブロッコリー栽培農家が自ら育苗も行うなど、様々な形態で育苗が行われている。

8月初旬の気温が異常高温であったため、発芽時に高温障害を受け発芽不良となっている苗もあるが、全体的に生育は順調である。農業普及課は播種支援を行うとともに、育苗農家を巡回し、育苗及び防除指導を行った。



【播種作業の様子】

■ なし 出荷が始まりました。美味しい梨を、ぜひどうぞ！

大垣市曾根梨部会では、7月31日に「なつしずく」「幸水」の出荷目揃会を行い、岐阜市場担当者から出荷基準について説明を受け、7月31日から「なつしずく」、8月1日から「幸水」の出荷が始まった。8月10日には集荷場にて「幸水」の現地出荷目揃会も行われ、それ以後本格的な出荷となった。今年は着果量が少なく玉数が制限されていたことと、7月に入ってから適度な降雨もあり、果実は後半に肥大して中心階級14玉、12玉と大玉傾向である。

農業普及課からは、果実肥大調査の結果及び害虫防除等についての情報提供を行った。

一部市場出荷している南若森園芸組合では、8月7日に目揃会が行われ出荷基準の確認を行った。8月10日頃から直売小屋にて梨の販売が本格的に開始されている。

■ GAP・農産物輸出 やってみようぜ！GAP～GAP推進チーム員会議を開催～

西濃農林事務所農業振興課と農業普及課は8月3日、管内市町及びJAにしみの担当者を参集して「農産物の輸出拡大及びGAP推進に向けた担当者会議」を開催した。農業普及課はGAP推進部分を担当し、7月に設置したGAP推進チームの活動目的と活動内容及び隣県のJ-GAP認証取得農場の事例を紹介し、GAPに関する取組み手法を具体的に説明した。また、農政部農産園芸課からもGAPを巡る情勢等について説明があり、GAP推進に係る意識統一と情報共有を図った。今後、GAP指導員(普及指導員)等が中心となって、GAPの普及拡大を推進していく。

一方、農産物輸出に関しては、農政部農産物流通課からの情報提供の後、市町及びJAにしみのから輸出の可能性のある農産物並びに加工品の報告があり、今後も輸出に向けた制度等について調査研究を続けていくことになった。



【できることから始めよう
GAP&輸出】

■ 朝市直売所 朝市農産物生産研修会を開催

農業普及課は、8月1日に朝市農産物生産研修会を開催し、西濃地域の朝市直売所生産者や関係者など59人が出席した。研修会では「農産物の食品表示について」「野菜づくりのポイント」及び「農薬の安全な使用について」を説明し、直売所での適正な食品表示や農薬の安全使用について呼びかけた。また、農薬の安全使用を啓発するために「朝市農産物に使われる主な農薬の使用の目安」を各直売所へ配布した。



【朝市農産物生産研修会
の様子】